

令和5年度第2回平塚市廃棄物対策審議会 会議記録

日 時 令和5年11月8日(水)14時から15時まで
場 所 平塚市役所本館 6階 619会議室
出席委員 原田委員、陶山委員、白石委員、鈴木委員、小林委員、上原委員、大岩委員、佐藤委員、工藤委員
(9名)
事務局 環境部長、環境政策課長、収集業務課長、環境施設課長、環境施設課施設管理担当課長、環境政策課資源循環担当長、収集業務課収集・分別推進担当長、環境施設課施設整備・広域担当長、環境施設課事業センター担当長、環境施設課破碎処理場担当長、環境施設課リサイクルプラザ担当長、担当者
(12名)
傍 聴 者 なし

1 開会

2 議題

(1) 令和4年度清掃事業の概要

(会長)

令和5年度第2回平塚市廃棄物対策審議会を開催いたします。まずは、議題1「令和4年度清掃事業の概要」について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

「資料 令和4年度 平塚市の清掃事業の概要」を説明

(会長)

事務局から説明していただきましたが、何か御質問、御意見等ございますか。

(委員)

3点質問がございます。1点目ですが、10ページの表3-3「ごみの排出状況」について、数値の詳細な説明は省略されておりましたが、数値の変化を見ますと様々なことが考えられるのだらうと思います。その中で、排出原単位ですが、令和4年度は1日1人あたり排出するごみの量は818グラムということでした。排出原単位については、確か目標値を設定していたかと思います。別の資料から確認しますと、令和7年の排出原単位の目標値が849グラム、令和12年で815グラムでした。既に令和7年の目標値をクリアしています。さらには令和12年の目標値にも近づいている状況です。排出原単位の目標値の見直しが必要かどうか伺いたいと思います。

2点目ですが、11ページの説明で、リサイクル率が非常に厳しい状況だということでした。先ほどの別資料では、令和7年の目標値が29.5%です。以前の審議会でも同様の状況が続いているという報告があり、リサイクル率を向上させるための施策を検討しているという説明がありました。その当時は、紙おむつなどのリサイクルを検討しているということだったと思いますが、現状で紙おむつなどのリサイクルだけで目標に届くのか

どうかお考えをお聞かせいただけたらと思います。

3点目ですが、16ページのまちぐるみ大清掃についてです。令和4年5月22日開催分として、ごみの収集量が約40トンと記載されております。令和3年5月開催分は、確か30トンくらいだったかと思いますが。比較いたしますと10トン増加しています。増加した要因について見解がございましたらお聞きしたいと思います。

(事務局)

3点御質問いただきました。1点目の目標値の見直しにつきましては、一般廃棄物処理基本計画の目標値だと推察いたしますが、確かに令和7年の目標値は達成している状況です。令和7年度に一般廃棄物処理基本計画の中間見直しを行いますので、その段階で目標値をさらに高く設定するかを検討するという事になると思います。

2点目のリサイクル率についてですが、令和4年度に可燃ごみの組成調査を行いました。生ごみに次いで多かったのがプラスチック類及び紙類という結果でした。資源再生物としてリサイクル可能なものを可燃ごみに含めず排出していただくことの推進、リサイクルの新たな品目の設定等でリサイクル率を向上できるか検討してまいります。

最後に3点目のまちぐるみ大清掃の回収量についてですが、令和4年度は春と秋の2回開催いたしました。令和2年度から令和3年度につきましては新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から1回ずつの開催となりました。令和4年度の回収量は、2回合計で約83トンでした。令和2年度では26トン、令和3年度では30トンの回収となりました。全体の回収量としては減少しています。また、新型コロナウイルスの感染拡大に配慮して、人と人との接触を避ける傾向が強く参加者が集まらないという地区もあり、全体としてまちぐるみ大清掃自体への参加者が少なかったことも回収量の減少に影響していたものと考えられます。

(委員)

まちぐるみ大清掃について御回答いただきましたが、回答の趣旨を踏まえたと参加者が増えれば、さらに平塚市の美化は向上するという理解でよろしいでしょうか。

(事務局)

回収量から考えますと、回収量と参加人数に相関関係はあると思います。公園や広場等の清掃もしていただいております。普段清掃しづらかった場所も人手をかけてできますので、回収量も増えていくものと思います。

(会長)

人数分の回収量のようなデータも記録しておけば、参加人数からどのくらいの回収量が見込めるというのが分かると思います。

(委員)

まちぐるみ大清掃に関しては、例えば台風後の清掃活動であれば普段よりもごみの回収量が増えるなどの状況の違いも考えられると思いますが、いずれにしろ、一般的には参加者が増えることによって普段清掃できなかった場所も清掃できているのだと思います。

(会長)

他に何かございますか。

(委員)

11ページの清掃業務見学会について、令和4年度は新型コロナウイルスの影響で見学はなかったということですが、令和2年度も新型コロナウイルスの影響で少なかったと思います。今回は令和4年度の報告だから令和2年度の説明はなかったということでしょうか。

(事務局)

今回は令和4年度の清掃事業の概要ですので、令和2年度の説明は省略しております。

(委員)

10ページや11ページの各表における数値について、各年度で推移を追っていくということのほかに、平塚市と同規模の自治体や神奈川県全体のリサイクル率や排出原単位と比較し評価することを今後検討しても良いのではないのでしょうか。

また、10ページの表3-3のごみの排出状況や表3-4のごみの処理状況等の数値は、表だけではなく棒グラフや折れ線グラフで記載していただくと理解しやすくなるのではないかと思います。

(会長)

今の御意見で重要なのは、比較できるデータが公表されているかだと思います。

(委員)

排出量やリサイクル率等は、各年度の増減から単純に良否を判断することはできませんが、数値自体の社会的な評価が分からなかったのも、インターネットで茅ヶ崎市や伊勢原市等の数値を参考に調べました。不確定要素の強いデータと比較しても正確なものではないということにはなるとは思います。参考値として記載していただくと理解が得やすくなるのではないかと思います。

(会長)

その通りだと思いますので御検討ください。他に何か御質問、御意見等ございますか。

(委員)

今年度も戸別収集の対象エリアが何地区か拡大されましたが、可燃ごみの排出量等が実績として減少傾向にあるというのは、目標値から考えて市の想定通りだったのでしょうか。

(事務局)

今年度10月に拡大した地区においては、データの検証中ですが現場作業員からは実感として減少していると聞いています。以前から実施していた地区においても確実に減量されております。拡大エリアの検証結果が出ましたら御報告したいと思っています。

(委員)

戸別収集の効果として、市が期待した目標値との差をどう考えているのかと思いお聞きしました。当然、個人の責任のもとでごみを排出するわけですから、水切りや使い切りなどの減量化の意識が働くということもあろうかと思いますが、戸別収集の効果として市の見解はどうでしょうか。

(事務局)

10ページの表3-3の可燃ごみの排出量を比較しますと、令和元年からの社会実験を含めまして堅調に減少していることが確認できるかと思えます。戸別収集の効果として、生ごみの水切りや堆肥化が促進されたとも考えられます。令和7年度までに設定した市の排出原単位の目標値である849グラムを既に超えているというところで、市の評価としましては戸別収集や様々な取組の結果、目標が達成できていると考えております。

(会長)

戸別収集の成果が出ていると見ても良いのではないかと思います。排出量の減少分に対して、収集にかかる労力が増加してしまっただけでは結果として処理経費がかかってしまいます。現行体制で運営できているということから鑑みれば、戸別収集は継続しても良いという判断材料にはなると思えます。

その他、御意見、御質問等ございますか。

(委員)

11ページのごみの処理状況で、全体の排出量が減少しリサイクル率も減少していることについて、おそらく総資源化量の減少が要因として大きいのかなと思えますが、どういった品目が減少してしまっただけでリサイクル率に影響しているのか分ければ教えてください。

(事務局)

ペットボトルの排出量は増加しているのですが、古紙類や空き缶の回収量は減少しています。組成分析からも可燃ごみに古紙類が多く排出されてしまっていることが確認できましたので、その部分が影響しているのではと考えています。

(委員)

生活スタイルの変化とか、そういった部分での影響はありますか。

(事務局)

排出量全体の減少からの推察にはなりますが、コロナ禍を経て、必要な物以外をあまり買わないという生活スタイルが定着してきているのではないかと思います。

(委員)

最終的には「空き缶」となる製品の販売量自体が減少しているなどは考えられますか。

(事務局)

缶からペットボトルへの移行というのが社会的には進んでいると思います。ペットボト

ルの軽量化も進んできていますので、缶の重量がそのままペットボトルの重量とイコールにならないため、リサイクル率も下がってきているものと推察されます。

(委員)

実績を踏まえて今後の対応、対策についての議題だと意見も出しやすいかもしれませんが、あえて平塚市全体の清掃事業についてということでしたら1点よろしいでしょうか。

以前当審議会で災害廃棄物の扱いについて質問しました。当時は、遠藤原と大神地区に災害廃棄物を集積して分別処理するというようなことをお話しされておりました。平塚市内には、平塚市と災害協定を締結している団体、組織等があると思います。災害協定締結団体等に対する発災時の具体的な役割分担について、コロナ禍以前に市から協議するというお話しもあったかと思いますが、その後、協議については進んでいるのでしょうか。

(事務局)

災害協定締結団体等と役割分担を含めた訓練や机上演習等の連携を今後どうしていくのかという御質問だと理解しました。例えば、平塚市では神奈川県内の産業廃棄物を処理している産業資源循環協会と災害協定を締結しております。発災時に本市処理施設の稼働が停止してしまった場合、処理を滞らせないために災害廃棄物の処理をお願いしたいということなどが協定の目的となります。連携については、産業資源循環協会、近隣の5市3町1一部事務組合及び神奈川県の御担当者にお集まりいただきまして情報共有を1年1回程度実施しております。しかしながら、市内の建設業協会または一般廃棄物収集運搬業の方々との連携が密にできておりません。今後、各団体との連携について検討させていただきたいと思います。

(会長)

その他、何か御質問、御意見等はありませんか。

(委員)

平塚市の産業政策部門等との連携について、何か実績があれば教えてください。

(事務局)

具体的な例としまして、ペーパーレス化を庁内全体で進めています。また、神奈川県電子申請システム等を活用することで、市民または事業者からの紙媒体での申請を減らしていく取組を進めているところです。

(委員)

不燃ごみでリユースできそうなものが集積所に排出されているのをよく見かけます。物を処分する際に、リユースが選択肢の1つになるように広報等に力を入れていただければと思います。

(委員)

資源化量について想像より少ないと感じています。新聞等の古紙類については、新聞販売店がトイレトペーパーと交換で回収してくれていますので、集積所まで運ぶことが困

難な高齢者が活用していることを踏まえると年度が進むにつれて減少していくのではないかと思います。また、集積所に出した可燃ごみをカラスや猫等の動物に荒らされないように段ボールを容器代わりにして排出してしまっていることが多いのも古紙類が減少してきている要因ではないかとも思います。古紙類の回収率を上げるためには、雑紙回収の取組が足りていないと思います。雑紙を集める袋を家庭に配布して、雑紙を可燃ごみに入れないう意識の醸成を図った地域があるというのを新聞で拝見しました。もう少し雑紙回収に力を入れていただけたら古紙類としての回収率は上がるのではないかと思います。

（事務局）

雑紙を紙袋に集めて排出していただきたいというのは現在も広報しておりますが、意識の定着・醸成というのが足りていないというのは委員の御指摘とおりだと思います。来年度以降に、雑紙を古紙類として排出しやすい取組みについて検討していきたいと考えております。

（会長）

古紙類の回収が進めばリサイクル率も上がると思います。より多くの市民に理解してもらおう情報発信をお願いします。

その他事務局から何かありますか。

（事務局）

第3回の日程については、年明け2月中旬から下旬、もしくは3月下旬で調整させていただきます。詳細については後日改めて調整させていただきます。

（会長）

それでは、令和5年度第2回平塚市廃棄物対策審議会を終了いたします。御協力ありがとうございました。

以上